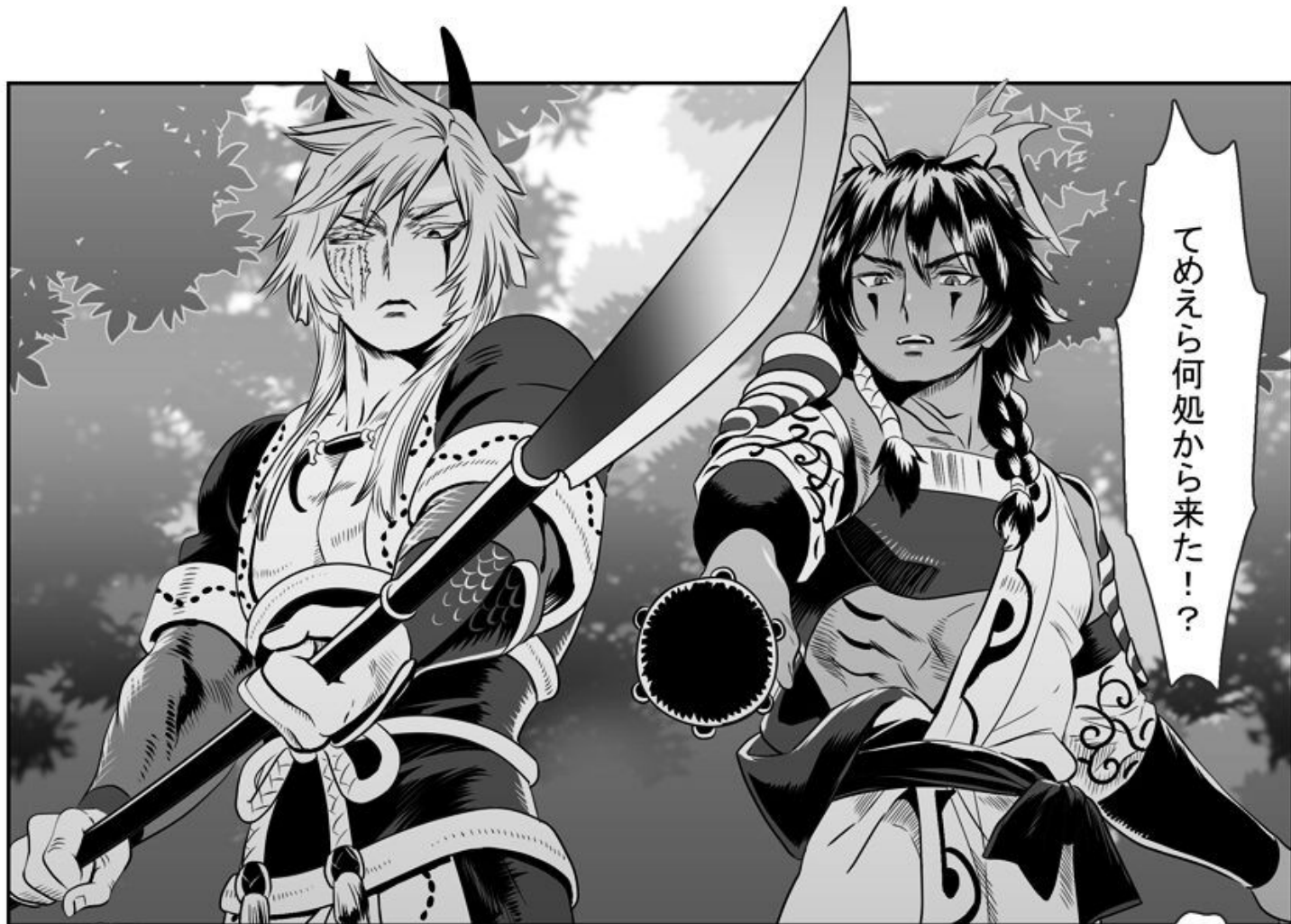


鬼の村 しめさぼ

【禁止事項】

- 本作品の未成年の閲覧を禁止します。
 - 本作品の全てのフェイルについて、使用・転載・配布・共有することを禁止します。
 - その他、著作権法に違反する一切の行為を禁止します。
- 上記の禁止行為を行った場合、法令に基づく処罰の対象になる可能性があります。







我々に大人しく付いて来るなら危害は加えない



落ち着け



俺達は魔族じゃねえッ!
もう一度同じ口叩いたらブツ殺すぞ!



キヨロキヨロすんな!
まっすぐ歩けっ



おーい村長お!

よそ者が迷い込んで来たんで
ひっ捕まえたぞ!

ほう...?

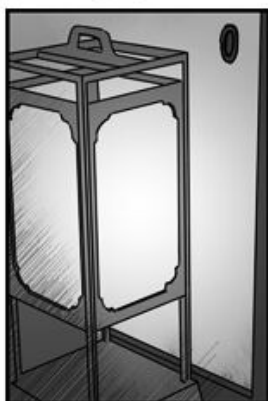
それは珍しい...



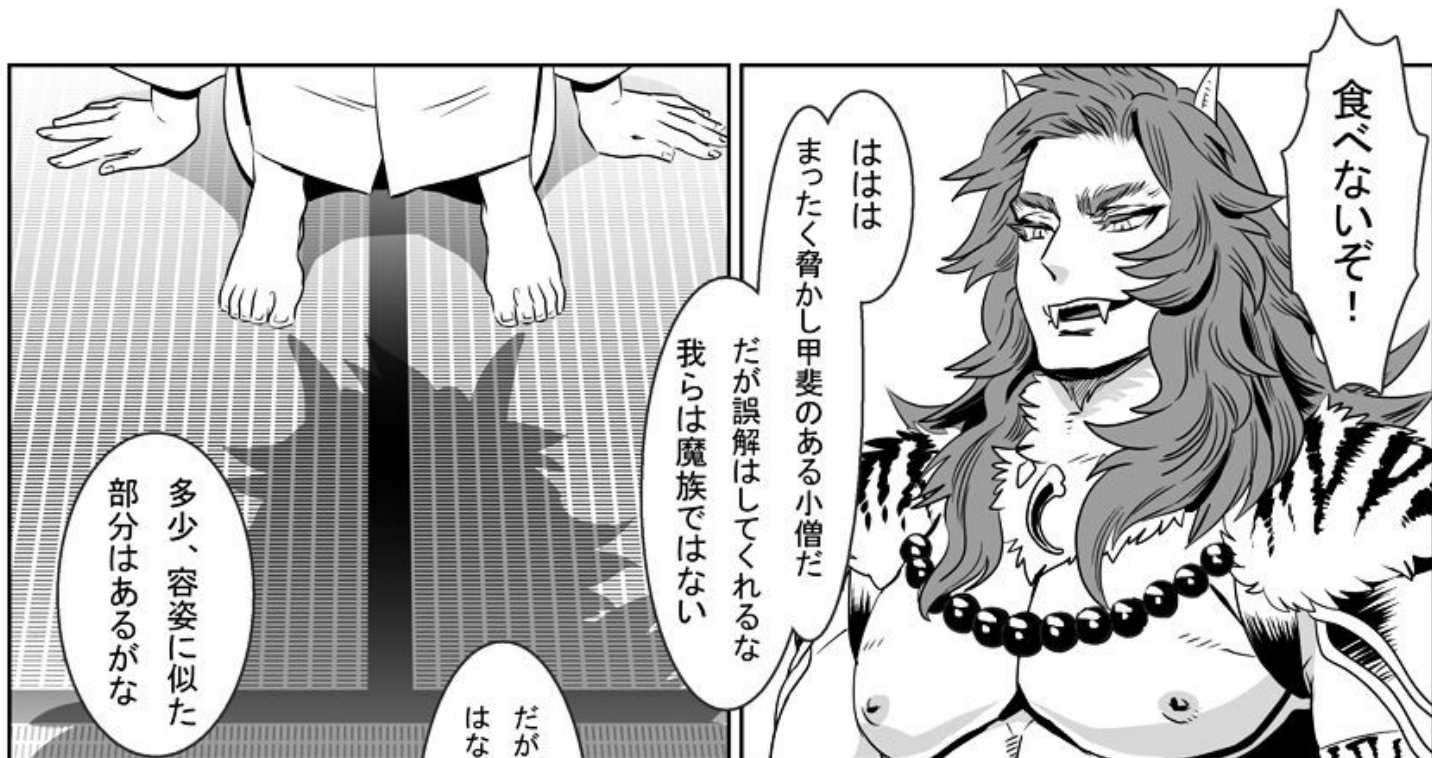
そうだ

あ...あの...ここは貴方がたの
村...ですか?









食べないぞ！

ははは

まったく脅かし甲斐のある小僧だ

だが誤解はしてくれんな
我らは魔族ではない

多少、容姿に似た
部分はあるがな

だが、少なくとも人間で
はないと考えているな？



そ、そうなんですか……？



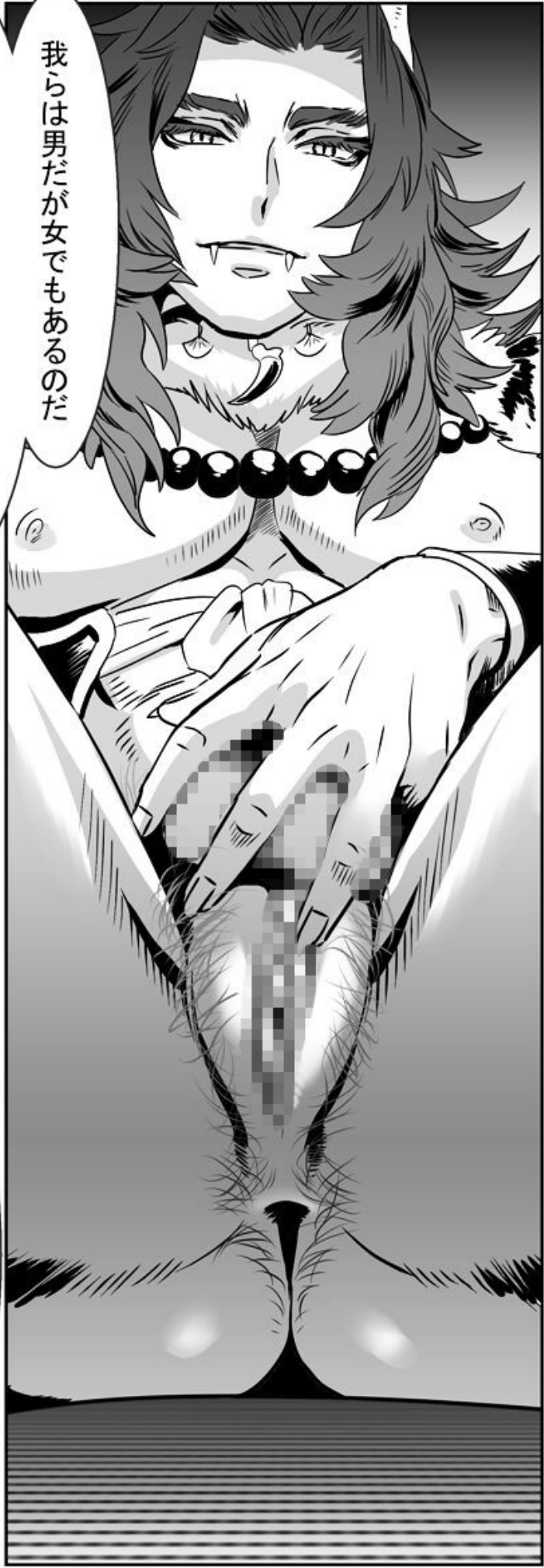
いや、え、あの、その

ぬしの答えが是でも非でも、半分当たっており半分外れている

手短に言うと、我らはかつて山神の怒りを買って呪いを受けた人間の末裔だ

その呪いに因る一つと思われるがこの村では例外なく男児しか生まれない





我らは男だが女でもあるのだ

これも呪いによる特性なれども、この為に男だけで代々子孫を残し、村を存続し得ている

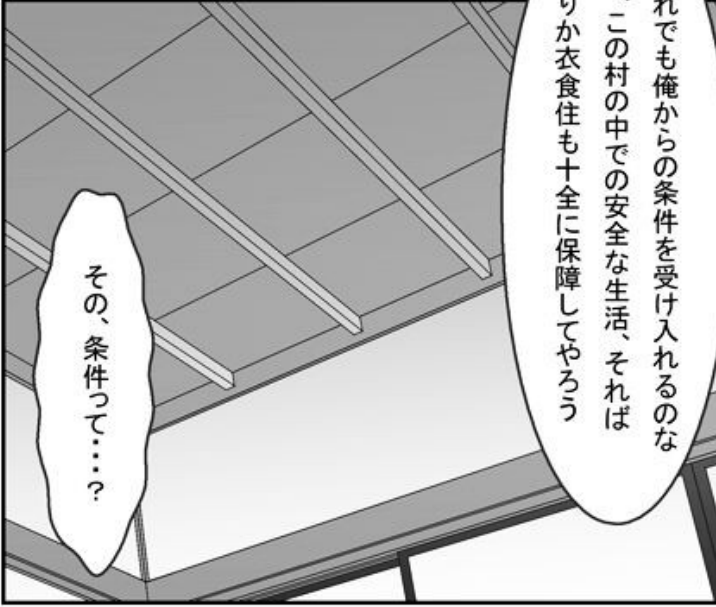


しかしこの異形だ、当然村の外の人間と交わる処か存在を知られることすらあつてはならない

魔族かその眷属と誤解されることは避けられんからな
よって秘匿を保つためにぬしらを村の外へ帰すことは出来ぬ



それでも俺からの条件を受け入れるのなら、この村の中での安全な生活、そればかりか衣食住も十全に保障してやろう



その、条件って……？

俺の夫になれ

! ?

さっき説明した通り、この小さな村は人の行き来が全く無く
村人同士でのみ血を繋いできた

…その結果、現在に至るまでに血が過度に濃縮され 明らかな問題が出てきた

極度の病弱に生まれつく子が増え、その幾ばくかは幼くして死んでいく血を薄めるには外から流れて来た、種が

必要なのだが…しかしそれを得る手立ては無い

ぬしらが迷い込んで来たのはそんな折での樁事だったのだ

だから今すぐにでもこの僥倖を確かなものとして実にしたい…
分かってくれるな?

いえ、その、そんな急に言われても…

……
断った場合の処遇についても話しておかないとなあ…

ま 待つて下さい
うう……

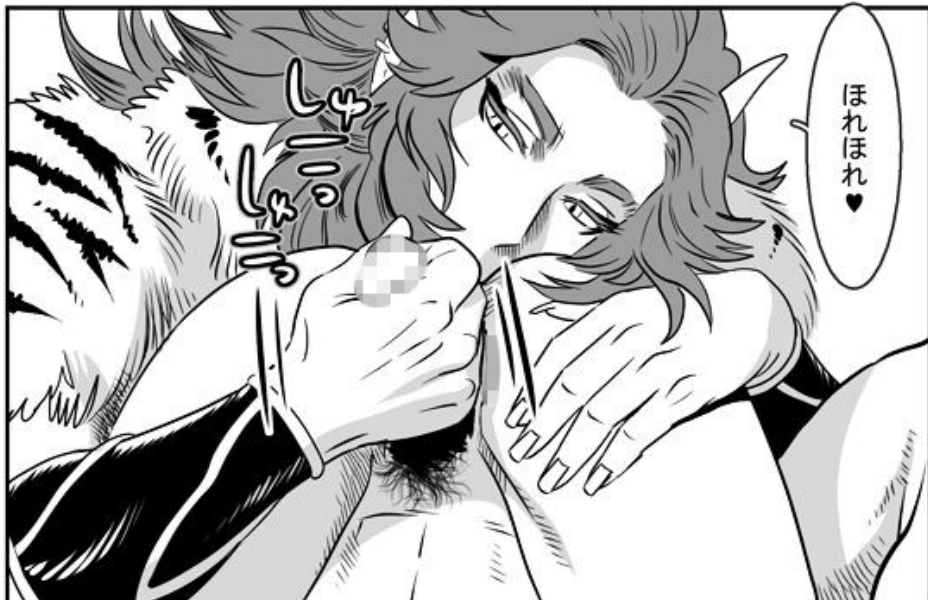
どうか今、
ここで答えを聞かせてくれ
…俺に種を捧げてくれるな?

は…はい…











おい そっすいえは
實際俺のこは女とやらの陰
部とそっくりなのか？

わ...分かんないです...
女の人とそっすいう経験無いので...

えっ

そうか



なら今ここで学んでおけ
言い伝えの通りなら多分同じ
ようなものだろう
触ってみろ









おお...凄い量だ...! 流石若いな
この初弾で孕んでしまうかも分かんないな



酷いです…一言も無く
よそ者を夫にするなんて

わたくしはもう貴方の
夫ではないのですね…



馬鹿を言うな、お前は俺の
一番大事な夫に決まってい
るだろう！

それに姦通はお前みずからが
好きにしろと申し出て来た事では
なかったか？ あれはどういう
つもりだったのだ？

それはこの病んだ身体では貴方を満足させるなど到底出来ないからです……

しかし……勝手に子を作っても良いなどとまでは申ししておりません

そうかそれはすまなかっただが、俺には跡継ぎを産む義務がある

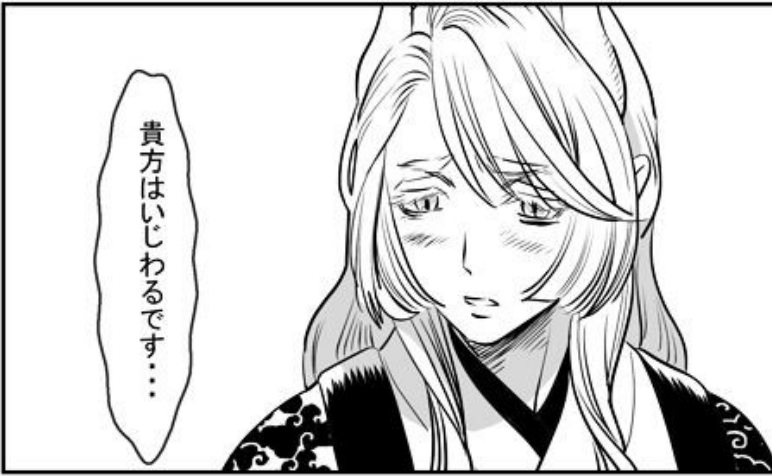
なにお前は子作りを拒むではないか

何度も申したとおり、自分と同じ病に苦しむ我が子など、二度と見たくないからです……

……そうですね、貴方が正しいです邪魔をして申し訳ありませんでした

まあ待て邪魔などとは一言も言っていないぞ

では、よそ者の男と貴方のまぐわいを指を啜えて見ていると言うのですか？





たつたの一発で孕んだ確証は無いぞ
今ある分は全ての種をはたいて貰う



何を言っている？

!?



相変わらず硬いなあ

俺がそういう事を好き好んでな
いのはよくご存知でしょう？



いいえ結構です！



ああ：そうだ
どうせならぬしも混ざったらどうだ



ええ…
そしてこれも只の乱痴気騒ぎではなく重
要な行為…せめてそこで立ち会っている
これは村長命令だぞ

そういう気性も尊重してはやりたいが、ぬし
もいずれは村のために子供を産む義務がある





わ、わたくしも もう入れたいです…

ああ、此処はお前専用だからな…

こちらの方はまだ誰にも
許していませんよね？

あま

うぐ…

すぐにすんなり入っちゃいましたね♥
私しか使ってないのにどうして
こんなに柔らかいのでしょうか…

ヒッ
ッ

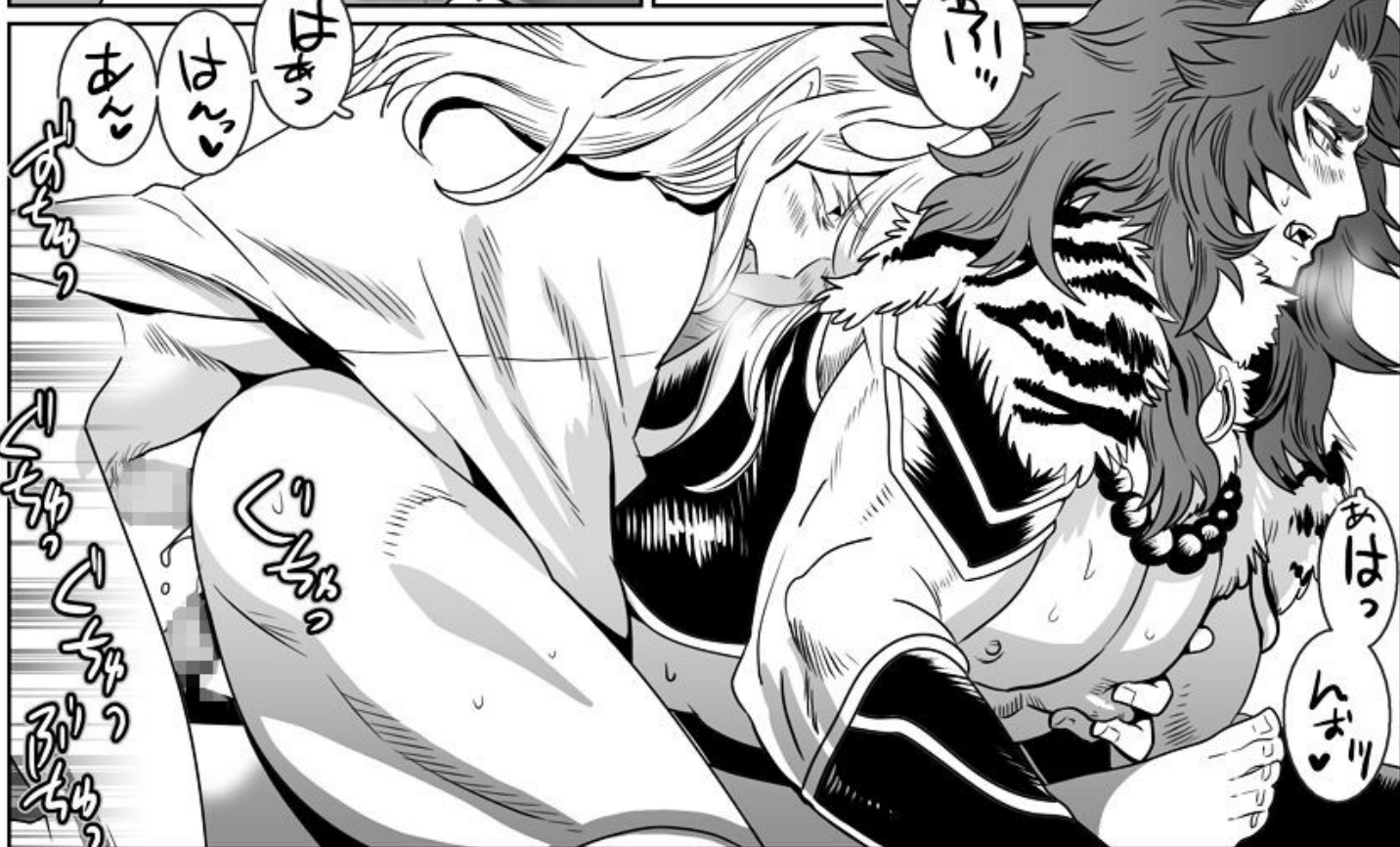
うぐ
うぐ

グッ
グッ

ん
ん

ズ
ズ

ズ
ズ





さすがに同時に二つの穴に出されるのは初めてだな...

しっかり見ていたか?

...あの





うう…
どうしてこんな
ことに

僕は一度引き返そうって提案
しようとした所だったのに

あんなモヤシじゃなくてもっと
頼りがいのあって正しい人に付い
て行けばよかった…

おい

ひっ

そこまで怯えるな 我々は見た目
ほど恐ろしい者ではない
こんななりだが心根はお前達とそ
う違うものではない

はあ…

あの青年は兄か？

いえ…

何のためにお前達は二人きりでこ
んな山奥をさまよっていたのだ？

僕は故郷をその…魔族に襲われて、安全に暮らせる場所を求めて旅をしていて…

でも、この山の周辺の村はみんな同じように滅ぼされていて…だから更に山を越えて人里を探そうとしていたのです

そうだったのか…
我々は誰も立ち入らぬ奥山に隠れ住んでいたのが幸いしたようだ まだ幼いのになんとか苦労してきたのだな

あなたのような優しい方がいて良かったです…
てっきり僕はここで殺されるのだと思っていました

ああ泣くな
我々はお前のような罪の無い子供の命を無闇に脅かすつもりはない

少なくとも私がそのように尽力しよう 流石にここから逃す訳にはいかないが、お前の境遇には同情している

…このようにして頂くと亡き親や兄を思い出します…

そそうか
こんな事が慰めになるのならいくらでもしてやろう

あの…良かったらついでに抱いてくれませんか？
檻越してもかまいません

…これでいいか？

そこかよー！

チッ…
せめて他の有用な
モンでも…

鍵は…

それにしてもとても男らしい
逞しい身体ですね…

モン
モン

ん、ちよつとそこはあまり
強く触るな

僕、大人の男性の逞しい
胸に憧れているんです
亡くなった父の広い胸を
思い出します…

そ、そんなのか
でも揉むのはやめてくれないか
そんなにされると…

男らしい、か…

ギンギン
ギンギン



勘違いするなバカヤロウ
そういう事をしに来たんじ
やねえよ！

…別の要求はあるがな

な、なんですか？

話を聞かせろよ

外の世界についての話をな

俺は生まれてから一度もこの
狭え村から出たことがねえ
ここに飽き飽きしてるんだ

そうですか

でも、外の世界は…そんなに良
いものではないと思います

聞かなきゃわかんねえだろうが
話してみろよ

なるほど…

外の世界には魔族やら魔物やらが蔓
延っていて危険でいっぱいって訳か





デカイ声を出すなバカ
今から算段を教える
からよく聞けよ…

なるほど…あなた達は男であり
ながら女でもあるわけですか

…外の世界の者にとっては不気味
な身体なのかもしれないが…

大変だ！

…良かった、そっちはいるか

どうした？

もう一人の捕らえていた
男が逃げたぞ！

いいえ！ そんなこと無いですよ
僕、男の人も女の人も好きなの
で一石二鳥だと思います♥

何！？ ずっと見張りは付いて
いたのだろう？

それが、一緒に逃げたんだよ！
おそらく手引きしたのかもしれん

何という事だ…





…凄いですね
真つ暗な獣道を一度もつまずかないで

むしろ夜目も利かないなんざ
そりゃ魔族に簡単に滅ぼされるわけだぜ…

それに、村の外に出たことが無い
のに迷わないのですか？

山ん中なら少し遠くまで調べておいて
あるんだよ 村を出ようと考えたのは
今に始まったことじゃねえからな



…あの…
やっぱり駄目…
ですよ

ここまで来てしつけない
悪いがお仲間まで連れ出す
余裕はねえって再三言った
だろ

ついでに言えばそいつの見
張り役、片目しか無い癖に
ええ厄介なんだよ…
俺の方が強いがな！



はい！

…あ その前にコレ
何とかしねえとな



！？



日が出てきたな

山を降りたら案内役はお
前だから頼むぞ

外でもこのままじゃ魔族と間違
われるだろ？



なんかすごい音してます
けど大丈夫ですか…？

大した事ねえよ

でもそうですよね…
僕も初めて会った時に間違え
てしまいましたから…

だろ



あの時はすみませんでした

あの野郎っ……！！

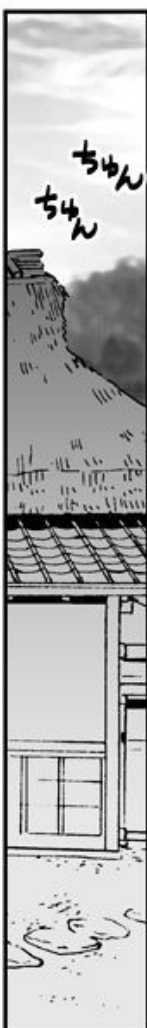
か弱い子供を置いて自分だけぬけ
ぬけと逃げやがって……！！ 絶対こ
の先碌な目に遭わないから……！！



今更謝らなくてもいいんだよ
めんどくせえ！



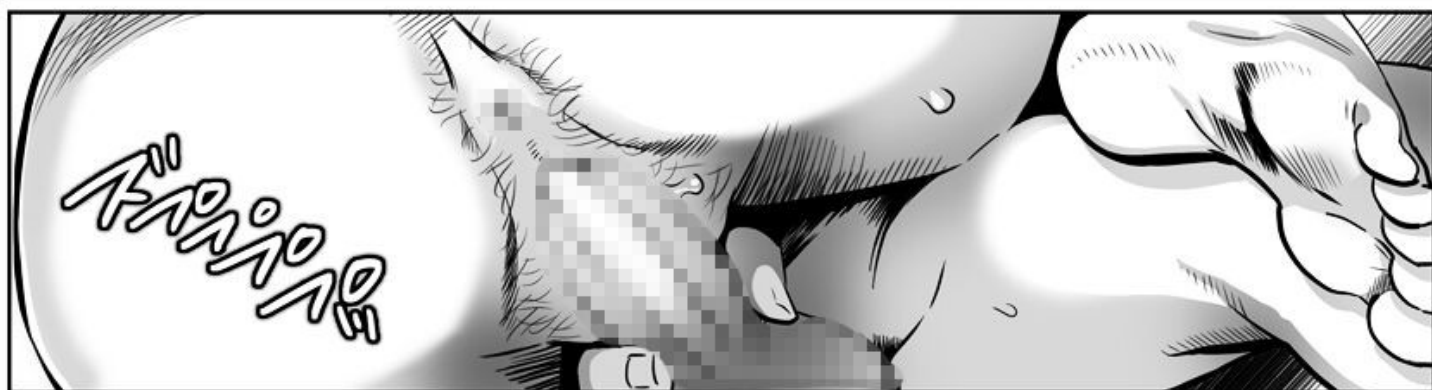
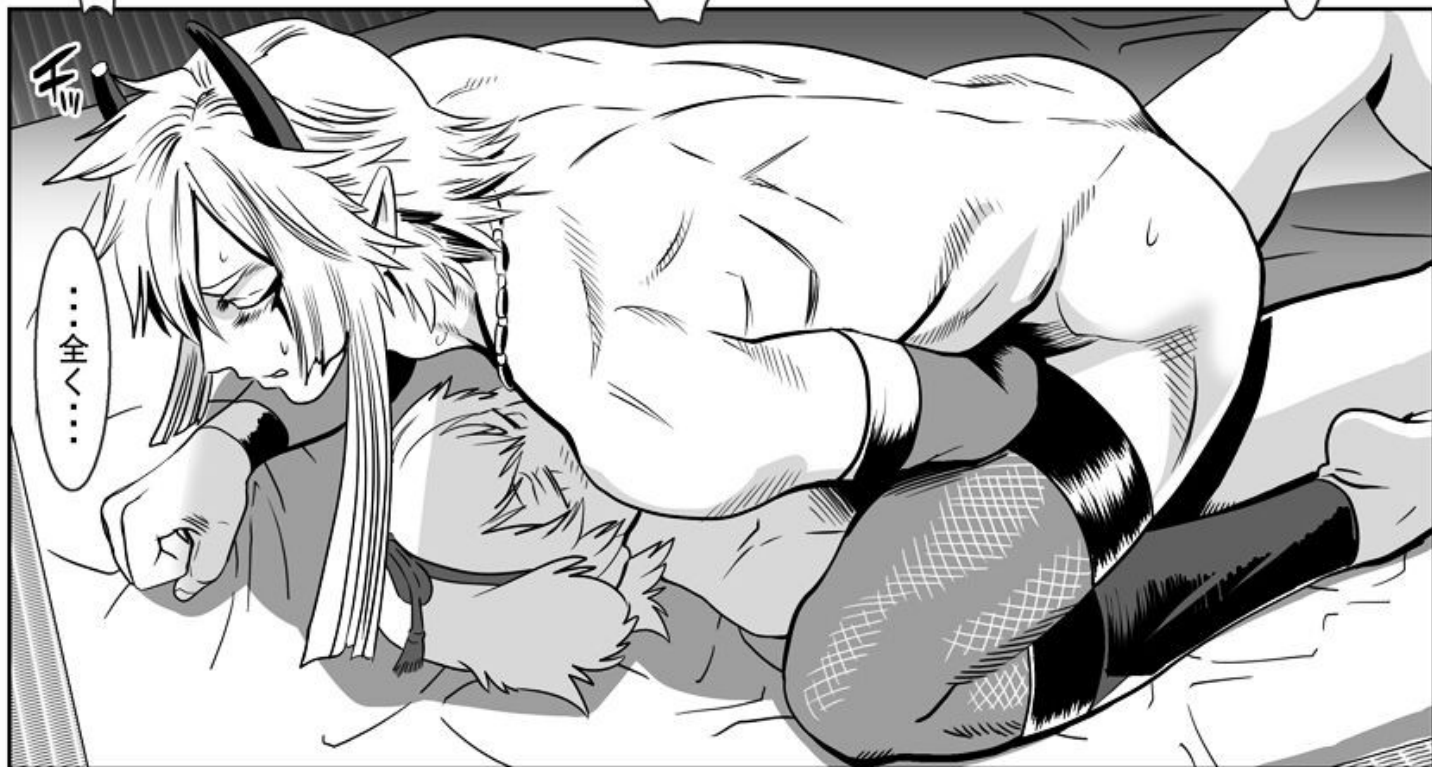
……



ちゃん
ちゃん









未亡人マンコ飢え過ぎ
だよ♡ ちんちん吸
い取られちゃう♡

出りゆよ!!!♡ 赤ちゃん
製造ミルクでりゆうう!!



パパになっちゃう
ううううッ!!!

お前がパパになるんだゾッ!!!

…うむ
ぬしの言う通り、心配
せずとも良いようだ
あとは任せたぞ

はあ
はあ

どろろ
どろろ



■登場人物

〈旅人〉

本作の主人公。魔物に居住地を滅ぼされ、安住の地を求めて旅している。ひ弱な見た目どおりに戦闘能力は皆無にも関わらず、過酷な境遇を何度も切り抜けて来ている。女性経験は無く、性的なことにウブであるが、欲求は人並みに…というか快樂に流されやすい方かもしれない。

〈お供〉

旅人にくっついて旅をしている童。利己的で他者を欺き利用することを躊躇わないが、平素は礼儀正しく可愛げのある子供として振舞っている。魔物の襲撃で████になったと自ら語っているが、その真偽は定かでない。幼い容姿に半してしたたかでスケベな性格の工口ガキで、セックスには目が無い。女も男も好きな両刀使いで、肉感的な体つきの年上好みのタイプ。

〈村長〉

穏の村の村長。酒が好物。優しい声色や穏やかな態度を用いるが、行動そのものは強引であり、時折冷酷さも見える。体の弱い夫がおり、掌中の珠のように溺愛している。夫との実子を産んだ事もあったが、病気ですでに亡くなっている。貞操観念や性的羞恥心が薄く、許可があるとはいえ、夫以外の相手との性交渉も躊躇わない神経を持っている。性欲は絶倫といえる程に強く、並大抵の相手では満足できない様子。

〈村長の夫〉

遺伝性の虚弱体質でしょっちゅう床に伏せている。しおらしい、なよやかな性格をしており、伴侶である村長の事を心から頼っている。実子を亡くしたトラウマにより自分の子孫を残す事を忌避しているが、性欲や性への執着がやけに強く、現在も村長との性交渉は盛んに行っている。ただし避妊と性癖を兼ねてもっぱら肛門での性交となっている。性欲が充足するよりも早く体力が限界を迎えてしまいがちで、常に村長を満足させられない自覚ゆえに卑屈になっており、他人との性交渉で性欲を発散する事を自ら容認している。

〈番兵1〉

利かん気の強い性格で乱暴な言動をするが、村一番の武勇を持つ若者。自立心や冒険心が強く、村の閉塞した環境に倦厭しておりその将来が明るくない事を予見している。村長に対しても思うところがあり、表立った不和は無いものの、信頼関係は結んでいない。

色っぽい事は苦手な硬派。

〈番兵2〉

顔半分に大きな傷痕があり近寄りがたい容貌だが、子供好きで慈悲深い性格。愚直も兼ねた生真面目さゆえに、情にほだされたり騙されたりしやすい。村長とは同世代の友人関係。性的羞恥心は強い方で、夫と死別して以来貞節を守っている未亡人。村民でも珍しく母乳が出る体質。出産していなくても身近に乳飲み子がいたり庇護心を刺激されると母乳が分泌される。その体質を生かして村長夫妻の子をはじめ、他人の子の乳母を務めて来た。女性器への刺激で絶頂に達すると高確率で潮を吹いてしまう体質も持っている。

■隠の村の性的風習

村民の身体構造は生殖器を除けば通常男性とほぼ変わらず、妊娠・出産に最適化されてはいない。高い出産リスクを低減するため、母役となるのは骨格が大きく頑健な者になる事が多く、いわゆる「蚤の夫婦」が多い。生殖上の役割は第二性徴が完了した歳頃に割り当てられ、婚姻相手についても村長らの協議で決められる。

■魔族

角を生やした人型種族。少数で一つの村里を壊滅させる強大な力を持つ。人肉が好物で積極的に人間を襲うため、太古からの天敵として人間に強い恐怖と憎悪を向けられている。容姿や能力から人間に魔族と誤解され、迫害を受けたり絶滅させられた異種族が少なからず存在する。